



世界の窓—韓国から

日本の社会科指導要領

「知識強国実現」を目指す「IT先進国・韓国」の社会科教育課程と授業の改訂作業

馬居 政幸



を語る

一 PCを駆使する社会科授業

「うーすこい、ぼくらでは無理だ」
昨年9月、韓国大田市の初等学校で、学生11名とともに参観した3年社会科授業での男子学生の感嘆の声である。單元名は「地方生活の中心地」、学習主題は「市場の種類と特徴を調べる」。

日本の小学校3年の地域の商店街学習に近い内容だが、驚きの原因は発表方法である。小グループで調査した市場の様子を写したビデオカメラの映像を編集し、それを発表者の言葉にあわせ

て大型液晶プロジェクトに映しながらインターネットからの映像と重ねる。このPC操作を初等学校3年生が行っていた。

中学校でも道德の授業を参観した。やはり、小グループで話し合った結果を天井固定の小型液晶プロジェクトで教壇横のスクリーンに映して発表。その映像にインターネットからの情報を重ねながら先生が指導する授業であった。

両校とも特別な研究校ではなく、開

校したばかりの新設校。特別に機器を整備した部屋でもない。韓国の初等学校の教室の教卓には大型液晶ディスプレイ、教材提示装置、インターネットと繋がるPCが、中学校の教室には液晶プロジェクトとスクリーンが設置されている。

これらの機器と情報を日常の学習活動に取り込むことで、変化する社会事象の学習への意欲が高まる。映像化された情報の操作により、一人ひとりに応じた社会認識の深化と相互理解の拡大が同時に可能になる。明らかに、韓国の社会科授業は日本の先を進んでいる。

二 社会科教育課程改訂の枠組み

教育課程改訂作業も日本の先を行く。その特徴を召亨(キム・ジョンホ) 韓国教育課程評価院) 氏の「社会科教育課程改訂試案研究の方向と結果」

〔社会科教育課程改訂試案研究公聴会報告書〕所収)から紹介したい。

まず「教育課程を変えることで新たな社会変動を導く」との立場から、社会科教育課程改訂の条件を3点提示する。

I 社会変動要因(知識・情報社会の深化・変化、低出生・高齢化など社会科に及ぼす社会変動)、II 国家・社会的要求(知識情報社会に備える人的資源、領土をめぐる政治・外交争点、社会問題化するクレジットカードによる過消費や高齢化に備える資産投資管理問題、人権保障と社会統合の基になる法意識強化教育など)、III 社会科の内在的問題(理念の多様性と対立、暗記教科批判など)

さらに、改正案開発の手順として、次の3段階を指摘する。

i 現行社会科教育課程の論争点の明

確化→ii 争点別に修正・補完すべき代案開発→iii 開発案の検証・評価

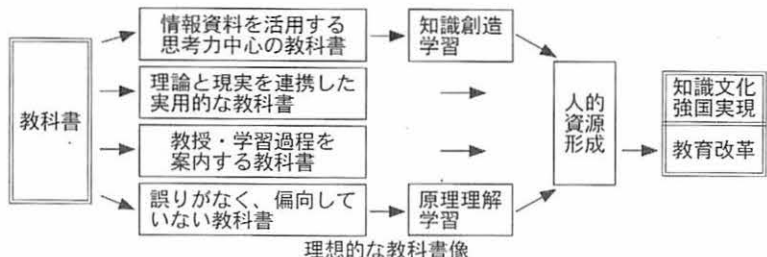
そして改正案を具体化するための観点と手順として、次の5種をあげる。

- ① 編成と内容の体系(領域間の統合と分化)、② 内容の範囲と程度(大綱化)、③ 内容の水準(基本と深化の二元体制)、④ 社会変動と国家・社会的要求の反映、⑤ 実施上の条件(教科書、学校施設、教師研修)

ここに紹介した特長から、韓国の改訂作業では、論理的・系統的に進める一方で、国家・社会の要求と学校現場の課題を同時並行で解決することを求められていることが理解されよう。この2つの要請の関係を端的に表現したのが下の図である。韓国の社会科教科書の理想像を示すが、注目したいのは矢印の行き着く先。「人的資源形成」による「知識文化強国実現」を可能に

する「教育改革」が、韓国の理想的社会科教科書のゴールにある。

この意味は重い。未来を先取る国家の位置づけと仕組みの学習の再構築を可能にする、社会科教育課程と実践方法の改訂を、一衣帯水の隣国が要請していると考ええる。



△静岡大学教育学部教授V

